

シイタケほだ木から採集される穿孔虫類

林業試験場九州支場 倉 永 善太郎
 ヤクルト本社熊本工場 中 嶋 功

1. はじめに

シイタケほだ木の害虫については野淵^{1, 2, 3)}・打越⁴⁾・藤下⁵⁾をはじめ各地で多くの加害種が報告されている。しかし九州地方における生態関係の既往の報告としては、近年突発害虫として取扱われているハラアカコブカミキリや、数種のカミキリムシ科⁶⁾と、キクイムシ科の一部以外は不明な点が多い。そこで筆者らは、これらのほだ木の穿孔性害虫防除の基礎資料を得る目的で、ほだ木に多く用いられているクヌギの穿孔虫類について、笠木や新ほだ木を喰害するタマムシ・カミキリムシ・ゾウムシ・キクイムシの各科を主体に種類や羽化期等の調査をおこない、これまでに若干の知見が得られたので報告する。

なお、この報告に際しゾウムシ科については九州大学農学部昆虫学教室助教教授の森本 桂博士、カミキリムシ科は同教室の模原 寛氏、キクイムシ科は林業試験場保護部昆虫第二研究室長の野淵 輝博士にそれぞれ同定していただいた。ここに厚くお礼申し上げる。

2. 調査地と調査方法

供試材料は熊本市近郊の伏せ込み場で笠木に使用されている技条部と、大分県竹田市および同県直入郡直入町で約1年間伏せ込みしたほだ木を、熊本市花園町と同市池上町平山のヒノキ林内ほだ場に搬入し次ぎの調査をおこなった。

1) 笠木は1978年秋に伐採して伏せ込み場に放置されたものを、翌1979年の春に上記のほだ場に搬入して地上に積み重ね、ほだ場内で笠木に飛来する穿孔虫の種類と個体数について、1ヶ月に2~3回程度の調査を同年12月までおこない、さらに、この笠木を翌1980年3月に室内へ移し、これより羽化する種類と個体数

を同年8月まで調査した。

2) 前記の各伏せ込み場に1年間伏せ込みされたほだ木の一部を、1)の笠木と同時に室内に移して、ほだ木から羽化する種類と個体数について同様の調査をおこなった。

3. 結果と考察

1) この供試材から得られたタマムシ科は表-1に示す3種であり、個体数が最も多かった種類はアサギナガタマムシで、本種のほだ木からの羽化ピークは5月中旬~下旬であった。なお他の2種は羽化個体数が少なく、笠木に飛来した個体は確認できなかった。

表-1 タマムシ科

種 名	笠木に飛来	笠木とほだ木から羽化
クロナガタマムシ		6・中
アサギナガタマムシ	6・上	4・下~5・下
ムツボシタマムシ		5・下

(注) 各表の数字は月、上中下は旬を示す。

表-2 カミキリムシ科

種 名	笠木に飛来	笠木とほだ木から羽化
ミドリカミキリ		4・上
ウスイロトラカミキリ		7・上
クビアカトラカミキリ		6・下
クリストフトラカミキリ		5・下
シラケトラカミキリ	5・中	4・中~4・下
エグリトラカミキリ		5・下~6・下
クロトラカミキリ		5・中~5・下
キイロトラカミキリ		4・下~6・中
ナガゴマフカミキリ	7・上~8・下	5・下~6・中
カタシロゴマフカミキリ		5・中~6・中
アトジロサビカミキリ	6・上	
ナカジロサビカミキリ	6・中	
チャボヒゲナガカミキリ	6・上	
ガロアケシカミキリ		5・下

2) カミキリムシ科は表-2に示す14種であった。羽化個体数が最も多かった種類はキイロトラカミキリとナガゴマフカミキリで、羽化のピークは前種が5月上旬～6月上旬、後種は5月下旬～6月上旬であるが、このうち藤下⁵⁾・大長光⁶⁾・主計⁸⁾らが主要加害種としているナガゴマフカミキリや、その他の種類でも羽化期にかなりの地域差がみられる。また上記2種に次いで個体数が多かった種類はシラケトラカミキリ・エグリトラカミキリ・クロトラカミキリの3種であり、他の地域で主要種とされているミドリカミキリはわずかに1頭を頭認したが、本種は打越⁴⁾による樹種の選択性が考えられる。なお、この14種以外に直入町の伏せ込み場の笠木から、ヒメクロトラカミキリ・ヒメナガサビカミキリ・アトモンチビカミキリが採集されている。

3) ゾウムシ科は表-3に示す13種が笠木から採集され、このうちモンシロカレキゾウムシ・ヒサゴクチカクシゾウムシ・チビクチカクシゾウムシの3種は特に個体数が多かった。また、これら13種のうちで笠木とほだ木から羽化した種類はシロヒゲナガゾウムシのみであり、本科の加害性については、さらに詳細な調査が必要である。

4) キクイムシ科は表-4に示す16種で、とくに個体数が多かった種類はカドヤマキクイムシであり、本種は堀田⁷⁾によりほだ木の害菌媒介の可能性が示唆されているが、本種の羽化ピークは5月下旬である。

以上は単一樹種のクヌギの笠木と新ほだ木について調査した結果の概要で、種類によっては飛来期と羽化期にずれがみられるが、これは羽化→後食→産卵等の生理・生態的な活動期の関係によるものと思われる。

つぎに、笠木に飛来した種類で笠木やほだ木から羽化しなかったものについては、今後さらに喰害関係を明らかにするとともに、他の樹種や場所による加害種の違いや、穿孔性害虫のうちでキクイムシ科に近縁のナガキクイムシ科と、完熟ほだ木を喰害する種類についても調査をおこなう必要がある。

表-3 ゾウムシ科

種名	笠木に飛来	笠木とほだ木から羽化
オオゾウムシ	5・中～8・中	6・中
モンシロカレキゾウムシ	4・中～12・中	
ヒサゴクチカクシゾウムシ	5・中～12・上	
チビクチカクシゾウムシ	4・下～8・上	
アラハダクチカクシゾウムシ	4・下～9・中	
アカナガクチカクシゾウムシ	5・上～9・上	
マダラクチカクシゾウムシ	5・上～6・中	
ツクチカクシゾウムシ	7・中	
クチカクシゾウムシの一種	6・中	
シロヒゲナガゾウムシ	9・下	
クロヒゲナガゾウムシ	4・下～11・上	
チュウジョウアナアキゾウムシ	6・中	
ダルマカレキゾウムシ	4・下	

表-4 キクイムシ科

種名	笠木に飛来	笠木とほだ木から羽化
セイリョウリキクイムシ	4・下～6・下	4・中～4・下
アカクビキクイムシ	5・上～11・下	5・上
ハンノキキクイムシ	4・中～11・上	4・中～4・下
ガンシヨキクイムシ 近似種	4・下～6・中 9・上～10・上	4・中～5・上
カドヤマキクイムシ	5・中～5・下	5・上～7・下
フタイロキクイムシ	4・下～5・下	4・下～5・下
アトマルキクイムシ亜科の一種	8・下～11・下	
Poecilips sp.	7・上	
Xyleborus sp.	4・下	
X. laetus Nijima		4・下～5・下

引用文献

- (1) 野淵 輝：植物防疫，29 (1)，11～16，1975
- (2) 野淵 輝：森林防疫，29 (5)，81～87，1980
- (3) 野淵 輝：森林防疫，29 (6)，109～115，1980
- (4) 打越 彰・小島圭三：77回日林講，374～376，1966
- (5) 藤下章男：広島県林試報告，(2)，9～27，1967
- (6) 大長光 純・金子周平：日林九支研論，33，131～132，1980
- (7) 堀田 隆・高橋和博・松尾考徳：日林九支研論，31，233～234，1978
- (8) 主計三平・金子周平：日林九支研論，32，393～394，1979